

## ② 局所刺激成分

局所刺激作用によって患部の痒みを抑える成分として、熱感を生じさせるクロタミトン、冷感を生じさせるカンフル、ハッカ油、メントール等が配合されている場合がある。

## (d) 止血成分

## ① アドレナリン作動成分

患部の血管を収縮させて出血を抑えることを目的として、塩酸テトラヒドロズリン、塩酸メチルエフェドリン、塩酸エフェドリン、塩酸フェニレフリン、塩酸ナファゾリン等のアドレナリン作動成分が配合されていることがある。アドレナリン作動成分に関する出題については、Ⅷ（鼻に用いる薬）を参照して作成のこと。

塩酸メチルエフェドリンが配合された坐剤、注入軟膏における留意点に関する出題については、Ⅱ-1（咳止め・痰を出しやすくする薬）参照して作成のこと。

## ② 収斂保護止血成分

粘膜表面に不溶性の膜を形成することで、粘膜を保護して止血する作用がある成分として、酸化亜鉛、タンニン酸などが配合されている場合がある。

タンニン酸については、ロートエキス・タンニン坐剤や複方ロートエキス・タンニン軟膏のように、鎮痛鎮痙作用のある成分であるロートエキスと組み合わせて用いられることもある。ロートエキスが配合された坐剤、注入軟膏における留意点に関する出題については、Ⅲ-3（胃腸鎮痛鎮痙薬）を参照して作成のこと。

## ③ 硫酸アルミニウムカリウム

局所的に粘膜を保護して止血する成分として、硫酸アルミニウムカリウム、卵黄油等が配合されることがある。

## (e) 殺菌消毒成分

殺菌作用により細菌の感染を防ぐ成分として、塩酸クロルヘキシジン、イソプロピルメチルフェノール、塩化セチルピリジニウム、塩化ベンザルコニウム、塩化デカリニウム等が配合されている場合がある。これら殺菌消毒成分に関する出題については、Ⅹ（皮膚に用いる薬）を参照して作成のこと。

## (f) 創傷治療促進成分

アラントイン及びそのアルミニウム塩であるアルミニウム・クロルヒドロキシアラントイネートには、肉芽形成作用、壊死組織除去作用があり、組織修復や肛門部の創傷の治療を目的として、外用痔疾用薬に配合されている場合がある。

## (g) 生薬成分

## ① シコン

ムラサキ科に属するムラサキの根を用いた生薬で、新陳代謝促進作用、殺菌作用、消炎作用があるとされている。

## ② セイヨウトチノキ種子

トチノキ科のセイヨウトチノキの種子を用いた生薬で、血液循環を改善し、抗炎症作用がある。

## (h) その他：ビタミン成分

肛門周囲の末梢血管の血行を改善し、患部の鬱血の改善を促す成分として酢酸トコフェロール（ビタミンE酢酸エステル）、傷の治りを促す成分としてビタミンA油等が配合されている場合がある。

## ● 内用痔疾用薬

内用痔疾用薬は、生薬成分を中心として、以下のような成分を組み合わせられて配合されている。

## (a) 生薬成分

生薬成分として、センナ（又はセンノシド）、ダイオウ、カンゾウ、トウキ、オウゴン、サイコ、ポタンビ、セイヨウトチノミ等が配合されている場合がある。

センナ（又はセンノシド）、ダイオウが配合された医薬品に共通する留意事項に関する出題については、Ⅲ-2（腸の薬）を参照して作成のこと。

カンゾウが配合された医薬品に共通する留意事項に関する出題については、Ⅱ-1（咳止め・痰を出しやすくする薬）参照して作成のこと。

トウキに関する出題については、ⅩⅡ（滋養強壮保健薬）を参照して作成のこと。

## ① オウゴン

オウゴンは、シソ科のオウゴンバナの根を用いた生薬であり、消炎、解熱作用を示す。

## ② サイコ

サイコは、セリ科のミンマサイコ又はその変種の根を用いた生薬で、中枢抑制作用、鎮痛、抗炎症等多様な薬理を持つことが知られ、精神神経用薬、痔疾用薬、滋養強壮保健薬等に配合される。

## ③ ポタンビ

ポタンビは、ポタンビ科のポタンビの根皮を用いた生薬で、鎮静、鎮痛作用を目的として用いられる。

## ④ セイヨウトチノミ

トチノキ科のセイヨウトチノキ（別名マロニエ）の種子を用いた生薬で、腫れ、炎症を抑える作用があるとされる。

## (b) 抗炎症成分

塩化リゾチーム、プロメラインのような消炎作用を有する成分が配合されている場合がある。これら成分に関する出題については、Ⅰ-1（かぜ薬）を参照して作成のこと。

## (c) 止血成分

毛細血管を強化し出血を抑える成分として、カルバゾクロムが配合されていることがある。

(d) その他：ビタミン成分

肛門周囲の末梢血管の血行を促して、鬱血を改善する成分として、酢酸トコフェロール、コハク酸トコフェロール等が配合されることがある。

#### ● 漢方処方製剤

乙字湯、芍薬湯のいずれも、構成生薬としてカンゾウを含む。カンゾウを含む医薬品に共通する留意点に関する出題については、II-1（咳止め・痰を出しやすくする薬）を参照して作成のこと。

また、切れ痔（便秘）に用いられる場合の乙字湯を除き、いずれも比較的長期間（1ヶ月位）服用されることがあり、その場合に共通する留意点に関する出題については、XIV-1（漢方処方製剤）を参照して問題作成のこと。

(a) 乙字湯

大便が硬くて便秘傾向がある人における痔核（いぼ痔）、切れ痔、便秘の症状に適すとされているが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人では、悪心・嘔吐、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

まれに重篤な副作用として、肝機能障害、間質性肺炎を生じることが知られている。

通常、構成生薬としてダイオウを含んでおり、注意すべき副作用等に関する出題については、III-2（腸の薬）を参照して作成のこと。その場合、他の瀉下剤との併用を避ける必要がある。

(b) 芍薬湯

痔出血の症状に適すとされているが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、腹痛等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

#### 3) 相互作用、受診勧奨

【相互作用】外用痔疾薬のうち坐剤、注入軟膏については、成分の一部が直腸で吸収されて循環血流に入り、内服の場合と同様の影響を生じる。そのため、痔疾薬の成分と同種の作用を有する成分を含む内服薬や医薬部外品、食品等が併用されると、効き目が強すぎたり、副作用が現れやすくなることがある。

内用痔疾薬では生薬成分を主体とした製剤や漢方処方製剤が中心となるが、生薬製剤又は漢方処方製剤を使用する際に留意されるべき相互作用に関する一般的な事項について、XIV（漢方処方製剤・生薬製剤）を参照して問題作成のこと。

【受診勧奨】一般の生活者においては、痔はその発症部位から恥ずかしい病気として認識されていることが多く、不確かな情報に基づく誤った処置がなされたり、放置して症状を悪化させ

てしまうことがある。

肛門部にはもともと多くの細菌が存在しているが、肛門の括約筋によって細菌の侵入を防ぎ、血流量も豊富なため、通常、感染症を生じることはない。しかし、痔の悪化等により細菌感染が起きると、異なる種類の細菌の混合感染によって起こり、膿瘍や痔瘻を生じて周囲の組織に重大なダメージをもたらすことがある。これらの治療には手術を要することもあり、すみやかに医療機関を受診し、専門医の診療を受ける必要がある。

痔の原因となる生活習慣の改善を図るとともに、一定期間、痔疾薬を使用してもなお、排便時の出血、痛み、肛門周囲の痒み等の症状が続く場合には、肛門癌などの重大な病気の症状である可能性も考えられ、早期に医療機関を受診して専門医の診療を受けることが望ましい。

#### 2) その他の泌尿器用薬

1) 代表的な配合成分等、主な副作用

残尿感、尿量減少等の症状の改善を目的とする生薬成分として、以下のようなものがある。いずれも小児への適応はなく、また、摂取した成分の一部が乳汁に移行することが知られている。

(a) ウワウルシ

ツツジ科のクマコケモモの葉を用いた生薬で、尿路消毒の効果を示す。

(b) カゴソウ

シソ科のウツボグサの花穂を用いた生薬で、消炎、利尿作用を示す。

カゴソウのみを長期間連用すると胃を刺激するため、胃が弱い人が服用する際には注意が必要である。

(c) キササゲ

ノウゼンカズラ科のキササゲの果実を用いた生薬で、利尿作用を示す。一度に大量に服用すると、気分が悪くなるなどの副作用を示す。体を壊している人、妊婦は使用前に医師又は薬剤師に相談することとなっている。

(d) サンキライ

ユリ科のケナシサルトリイバラの根茎を用いた生薬で、利尿、解毒作用を示す。

(e) ソウハクヒ

クワ科のマグワの根皮を用いた生薬で、利尿、消炎作用を示す。

(f) モクツウ

アケビ科のモクツウの木質茎を用いた生薬で、利尿作用、消炎作用を示す。

#### ● 漢方処方製剤

いずれも比較的長期間（1ヶ月位）使用されることがあり、その場合の留意点に関する出題に

<sup>1</sup> 肛門周囲に接している皮膚細胞又は肛門と直腸の境の粘膜上皮細胞が腫瘍化したもの

については、XIV-1（漢方処方製剤）を参照して作成のこと。

(a) 牛車腎気丸

疲れやすく、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿で、ときに口渇がある人における、下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、痒み、排尿困難、頻尿、むくみの症状に適すとされているが、胃腸が弱く下痢しやすい人、のぼせが強く赤ら顔で体力の充実している人では、胃部不快感、腹痛、のぼせ、動悸等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。また、4歳未満の小児には適用がない。

まれに重篤な副作用として、肝機能障害、間質性肺炎を生じることが知られている。

(b) 八味地黄丸

疲れやすく、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿で、ときに口渇がある人における、下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、痒み、排尿困難、頻尿、むくみの症状に適すとされているが、胃腸の弱い人、下痢しやすい人では使用を避ける必要があり、また、のぼせが強く赤ら顔で体力の充実している人では、のぼせ、動悸等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

(c) 六味丸

疲れやすく、尿量減少又は多尿で、ときに口渇がある人における、排尿困難、頻尿、むくみ、痒みの症状に適すとされているが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感や腹痛等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

(d) 猪苓湯

尿量が減少し、尿が出にくく、排尿痛あるいは残尿感がある人に適すとされている。

(e) 竜胆瀉肝湯

比較的体力があり、下腹部の筋肉が緊張する傾向がある人における、排尿痛、残尿感、尿の濁り、こしけ（おしもの）の症状に適すとされているが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

構成生薬としてカンゾウを含む。カンゾウを含む医薬品に共通する留意点に関する出題については、II-11（咳止の・痰を出しやすくする薬）を参照して作成のこと。

2) 相互作用、受診勧奨等

【相互作用】 生薬製剤又は漢方処方製剤を使用する際に留意されるべき相互作用に関する一般的な事項について、XIV（漢方処方製剤・生薬製剤）を参照して問題作成のこと。

【受診勧奨等】 残尿感や尿量減少は一時的な体調不良等によるもののほか、泌尿器系の疾患における自覚症状としても現れる。例えば、膀胱炎や前立腺肥大などによっても、これらの症状が起りうることから、このような場合、一般用医薬品によって対処することは適当でない。

したがって、医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等に対して、これらの一般用医薬品の使用は一時的なものに止め、症状が継続するようであれば医療機関を受診するよう促していくことが重要である。

DRAFT

## VI 婦人薬

## 1) 適用対象となる体質・症状

婦人用薬の効能・効果として、血の道症、更年期障害、月経異常及びそれらに伴う冷え性、月経痛、腰痛、頭痛、のぼせ、肩こり、めまい、動悸、息切れ、手足のしびれ、こしけ（おりもの）、血色不良、便秘、むくみ等がある。

血の道症とは、月経、妊娠、分娩、産褥、更年期等の生理現象や、流産、人工妊娠中絶、避妊手術等といった原因で生じる異常生理によって起こり、臓器・組織の形態的異常は見当たらないが、抑鬱や寝つきが悪くなるなどの精神・神経症状が現れる病態である。

更年期障害は、閉経前後の卵巣機能の低下によって女性ホルモンの分泌が減少する時期、いわゆる更年期に見られる。更年期の不定愁訴<sup>1</sup>として前記の血の道症の症状に加え、冷え性、腰痛、頭痛、頭重、ほてり、のぼせ、発汗、立ちくらみ等が挙げられる。

婦人用薬は、月経及び月経周期に伴って起こる症状を中心として、女性に現れる特有な諸症状の緩和と、保健を主たる目的とする医薬品であり、血行不順、自律神経の乱れ、生理機能障害等の女性特有の不快感を改善する。

## 2) 代表的な配合成分等、主な副作用

## (a) 生薬成分

## ① センキュウ

セリ科のセンキュウの根茎を用いた生薬で、血行を改善し、主に冷えの症状を緩和する。

## ② トウキ

セリ科のトウキ又は近縁植物の根を用いた生薬で、血行を改善し、主に冷えの症状を緩和する。

## ③ ボタンピ

ボタン科のボタンの根皮を用いた生薬で、鎮痛・鎮痙作用により腹痛等を鎮める。

## ④ その他

緩下作用、健胃整腸作用がある生薬としてダイオウが婦人用薬に配合されている場合もあり、ダイオウに関する出題については、Ⅲ-2（腸の薬）を参照して作成のこと。

鎮痛・鎮痙作用がある生薬としてシャクヤクが配合されている場合もあり、シャクヤクに関する出題については、Ⅰ-2（解熱鎮痛薬）を参照して作成のこと。

健胃作用のある生薬としてオウレン、ケイヒ、ソウジュツ、ビャクジュツ、ブクリョウが配合されている場合もあり、これらの健胃生薬に関する出題については、Ⅲ-1（胃の薬）を参照して作成のこと。

<sup>1</sup> 体のどの部位が悪いのかはっきりしない訴えで、全身の倦怠感や疲労感、微熱感などを特徴とする。更年期障害のほか、自律神経失調症等の心身症の症状として現れることが多い。

消炎作用がある生薬としてカンゾウが配合されている場合もあり、カンゾウに関する出題、カンゾウを含有する医薬品に共通する留意点に関する出題については、Ⅱ-1（咳止め・痰を出しやすくする薬）を参照して作成のこと。

## (b) ビタミン成分等

疲労時に消耗しがちなビタミンの補給を目的として、ビタミンB1（チアミン及びその誘導体）、ビタミンB2（リボフラビン及びその塩類）、ビタミンB6（ピリドキシン及びその誘導体）、ビタミンB12（シアノコバラミン）、ビタミンC（アスコルビン酸及びその塩類）が配合されている場合がある。

また、冷え、肩こり、のぼせ等の更年期における諸症状を緩和する目的でビタミンE（トコフェロール及びその誘導体）配合されている場合がある。

このほか、滋養強壮作用をもつアミノエチルスルホン酸（タウリン）、グルクロノラクトン等が配合されている場合がある。

これら成分に関する出題については、XⅢ（滋養強壮保健薬）を参照して作成のこと。

## ● 漢方処方製剤

女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方処方製剤として、温経湯、温清飲、加味逍遙散、桂枝茯苓丸、五積散、柴胡桂枝乾姜湯、四物湯、桃核承気湯、当帰芍薬散等がある。

これらのうち、温経湯、加味逍遙散、五積散、柴胡桂枝乾姜湯、桃核承気湯は構成生薬にカンゾウを含有している。カンゾウを含有する漢方処方製剤に共通する留意点に関する出題については、Ⅱ-1（咳止め・痰を出しやすくする薬）を参照して作成のこと。

また、感冒に用いられる場合の五積散、便秘に用いられる場合の桃核承気湯を除き、いずれも比較的長期間（1ヶ月位）服用とれることがあり、その場合に共通する留意点に関する出題については、XⅣ-1を参照して問題作成のこと。

## (a) 温経湯

比較的体力の低下した冷え症の人で、手足のほてり、口唇の乾燥、下腹部の冷え、痛み等を訴える人における月経不順、月経困難、こしけ（おりもの）、更年期障害、不眠、神経症、湿疹、足腰の冷え、しもやけに用いられる。

## (b) 温清飲

皮膚の色つやが悪く、のぼせを訴える人における月経不順、月経困難、血の道症、更年期障害、神経症に用いられる。

まれに重篤な副作用として、肝機能障害を生じることが知られている。また、著しく胃腸の弱い人では、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感等）が現れやすい。

## (c) 加味逍遙散

虚弱体質で肩がこり、疲れやすく、精神不安等の精神神経症状、ときに便秘の傾向のある人における冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症に用いられる。

まれに重篤な副作用として、肝機能障害を生じることが知られている。また、著しく胃腸の弱い人では、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感等）が現れやすい。

(d) 桂枝茯苓丸

体力中等度又はそれ以上で、のぼせて赤ら顔が多く、下腹部に抵抗・圧痛を訴える人における子宮並びにその付属器の炎症、子宮内膜炎、月経不順、月経困難、こしけ（おりもの）、更年期障害、冷え症に用いられる。

著しく体力の衰えている人には、本剤の適応は向かないとされている（副作用が現れやすくなり、その症状が増強されるおそれがある）。まれに重篤な副作用として、肝機能障害を生じることが知られている。

(e) 五積散

慢性に経過し、症状の激しくない胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、冷え症、更年期障害、感冒に用いる。

病後の衰弱期、著しく体力の衰えている人においては副作用が現れやすくなるため慎重に投与する。また、著しく胃腸の弱い人では、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感等）が現れることがある。

構成生薬にマオウが含まれており、マオウを含有する漢方処方製剤に共通する留意点に関する出題については、Ⅱ-1（咳止め・痰を出しやすくする薬）を参照して作成のこと。

(f) 柴胡桂枝乾姜湯

体力が弱く、冷え症、貧血気味で、動悸、息切れ、不眠等の精神神経症状を訴える人における更年期障害、血の道症、神経症、不眠症に用いられる。

まれに重篤な副作用として、間質性肺炎、肝機能障害を生じることが知られている。

(g) 四物湯

皮膚が乾燥し、色つやの悪い体質で胃腸障害のない人における、産後又は流産後の疲労回復、月経不順、冷え症、血の道症に用いられる。

胃腸の弱い人では、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感等）が現れることがある。

(h) 桃核承気湯

比較的体力があり、のぼせて便秘しがちな人における月経不順、月経困難症、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）に用いられる。

著しく体力の衰えている人には、本剤の適応は向かないとされている（副作用が現れやすくなり、その症状が増強されるおそれがある）。また、著しく胃腸の弱い人では、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感、下痢等）が現れやすい。

構成生薬にダイオウが含まれており、ダイオウを含有する漢方処方製剤に共通する留意点

に関する出題については、Ⅲ-2（腸の薬）を参照して作成のこと。

(i) 当帰芍薬散

比較的体力が乏しく、冷え症で貧血の傾向があり疲労しやすく、ときに下腹部痛、頭重、めまい、肩こり、耳鳴り、動悸等を訴える場合の、月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、産前産後又は流産による障害（貧血、疲労倦怠、めまい、むくみ）、めまい、頭重、肩こり、腰痛、足腰の冷え症、しもやけ、むくみ、しみ等に用いられる。

著しく胃腸の弱い人では、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐等）が現れることがある。

3) 相互作用、受診勧奨

【相互作用】 婦人用薬は、通常、複数の生薬成分を含有しているため、他の婦人用薬や生薬含有製剤等と併用すると含有生薬が重複して、効き目が強すぎたり、副作用が起こりやすくなるおそれがある。ダイオウ、カンゾウを含む製剤との併用には特に注意すること。

婦人用薬は、生薬成分を主体とした製剤や漢方処方製剤が中心となるが、生薬製剤又は漢方処方製剤を使用する際に留意されるべき相互作用に関する一般的な事項について、XIV（漢方処方製剤・生薬製剤）を参照して問題作成のこと。

【受診勧奨】 1ヶ月位服用しても症状が良くなる見込みがない場合には医療機関を受診することが望ましい。月経痛について、年月の経過に伴って次第に増悪していくような場合には、子宮内膜症や子宮筋腫等の病気の可能性がある。また、月経不順は卵巣機能不全により引き起こされている場合もある。

そして、頭痛や鬱状態、動悸・息切れ等の更年期障害の不定愁訴とされる症状の背景に、原因となる病気が存在する可能性もある。鬱状態については、鬱病等が背景に隠れている場合もある。そして、動悸・息切れが心疾患による症状のおそれもある。また、頭痛については、頻回になった場合、一般用医薬品の使用では痛みを抑えられない場合には、医療機関を受診することが望ましい。突然の激しい頭痛、手足のしびれや意識障害などの異常を伴う頭痛が現れたときの注意については、Ⅱ-2（解熱鎮痛薬）を参照して作成のこと。

## VII アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む）

## 1) アレルギーの症状、薬が症状を抑える仕組み

アレルギー（過敏反応）の起こる仕組み等に関する出題については、第1章 II-1）（副作用）を参照して作成のこと。

ある物質がアレルギーとなるか否かは、人それぞれによって異なり、複数の物質がアレルギーとなることもある。主なものとしては、米、小麦、卵、乳、そば等の食品、塵埃、動物のフケ、ダニ等、様々なものが対象となり、スギ等の花粉のように季節性のももある。

アレルギーとなる物質が体内に入り込むと、それを排除するために産生された免疫グロブリンが肥満細胞<sup>1</sup>を刺激し、細胞間での刺激の伝達を担う化学物質（グアニルメディエーター）であるヒスタミンやプロスタグランジンなどの物質が放出されて、周囲の器官や組織の表面に分布する特定の蛋白質（受容体）と反応することで血管拡張や炎症等を引き起こす。

通常の免疫反応の場合、これらの炎症やそれに伴って発生する痛み、発熱等は、人体にとって有害なものを体内から排除するための必要な過程であるが、アレルギーにおいては過剰に組織に刺激を与える場合も多く、そのように引き起こされた炎症自体が過度に苦痛を与えることになる。

そのようにして体の各部位に生じる炎症をアレルギー症状といい、比較的軽度なものとして、流涙や眼の痒み等の結膜炎症状、鼻汁やくしゃみ等の鼻炎症状、蕁麻疹や湿疹、かぶれ等の皮膚症状、血管性浮腫<sup>2</sup>のようなやや広い範囲にわたる腫れ等が生じることが多い。また、アレルギーによる気管支喘息は、炎症による粘膜の腫れにより、気管支の内径が狭くなるとともに、ヒスタミン等の物質が気管支を収縮させることで引き起こされる。

アレルギー用薬は、アレルギーの諸症状を緩和するため使用される内服薬の総称で、そのうち特に鼻炎症状の緩和のため、鼻粘膜の血管を収縮する成分等を組み合わせて配合されたものを鼻炎用内服薬という。アレルギー用薬では、アレルギーに反応して放出されるヒスタミンの働きを妨げる作用を有する成分（抗ヒスタミン成分）が主に使われる。

アレルギーの諸症状を緩和するため使用される内服薬以外の医薬品（点鼻薬、点眼薬、外用薬）については、それぞれVII（鼻に用いる薬）、IX（眼科用薬）、X（皮膚に用いる薬）を参照して作成のこと。

## 2) 代表的な配合成分等、主な副作用

鼻炎用内服薬では、抗ヒスタミン成分のほか、鼻の血管を収縮する成分や炎症そのものを抑える成分なども配合されている場合がある。

## (a) 抗ヒスタミン成分

<sup>1</sup> 免疫機構の一端を担う細胞で、主に粘膜の下や皮膚の深部に存在している。なお、肥満細胞の名称はヒスタミン等の成分を細胞内に多く含むため、細胞自体が大きくなることから付いたものであり、肥満症と関連性はない。

<sup>2</sup> 皮膚の下の毛細血管が拡張して、その部分に局所的な腫れを生じるもので、蕁麻疹と異なり、痒みを生じることは少ない。全身で起こりうるが、特に目や口の周り、手足などで起こる場合が多い。

アレルギーに免疫機構が反応して肥満細胞から放出されるヒスタミンが、周囲の組織にあるヒスタミン受容体と結合するのを妨げることにより、アレルギーが増幅するのを抑える成分（抗ヒスタミン成分）として、マレイン酸クロルフェニラミンや塩酸ジフェンヒドラミン、塩酸ジフェニルピラリン、塩酸プロメタジン、メキタジン等が用いられる。

内服で用いられる抗ヒスタミン成分は、アレルギー症状を示す以外の部位においても、ヒスタミンとその受容体との反応を妨げる。例えば、ヒスタミンは、脳内での興奮を抑える働きがあり、睡眠を調節する働きに対しても影響を及ぼすため、抗ヒスタミン成分による副作用として眠気が現れる（I-3（眠気を促す薬）参照。）。したがって、服用後は事故のおそれがあるため運転等の作業をしないようにしなければならない。なお、まれに眠気とは正反対の作用を生じて、神経過敏や興奮などが起きることもあり、小児や高齢者、脳障害のある人はこの反応を起こす可能性が高く注意が必要である。

また、一般用医薬品として用いられる成分では抗ヒスタミン作用のみならず、抗コリン作用も併せて持つ場合がある。このため、口の渇きが起こったり、排尿が困難になるなどの副作用が現れることがある。口の渇きが続きたり、増強するようであれば、服用を中止して、医師等に相談がなされることが望ましい。

また、塩酸ジフェンヒドラミンは乳汁に移行することから、授乳婦は服用を止めるか、又は服用中は授乳を避ける必要がある。また、塩酸プロメタジンに関する留意点についてはI-5（鎮痛薬）を参照して問題作成のこと。

## (b) アドレナリン作動成分

塩酸プソイドエフェドリン、塩酸フェニレフリン等が主に用いられる。アドレナリン受容体を刺激して鼻の血管を収縮することで、鼻炎時の鼻汁、鼻閉（鼻づまり）に効果を示す。これらの症状に対するアドレナリン作動成分の働きに関する出題については、VIII（鼻に用いる薬）を参照して作成のこと。

アドレナリン受容体の刺激は鼻以外の部位でも起こるため、血管を収縮することで血圧上昇等による副作用として、めまいや不眠、神経過敏等が起こりうる。

塩酸プソイドエフェドリンは、高血圧や心臓病、糖尿病、甲状腺機能障害等の診断を受けている人や、前立腺肥大による排尿困難の症状がある人では服用しないこととされている。また、医療用医薬品としてパーキンソン病の治療のために用いられるモノアミン酸化酵素阻害剤（塩酸セレギリン等）で治療を受けている場合、体内でのプソイドエフェドリンの代謝が妨げられて、塩酸プソイドエフェドリンの作用が強まるおそれがあるため、治療を受けている医師等にあらかじめ相談するよう促すことが重要である。

また、塩酸プソイドエフェドリンについては、依存性がある成分であり、大量に使用したり長期間に渡って連用がなされると薬物依存につながるおそれがある。本来の目的以外の意

<sup>3</sup> 生体物質であるアドレナリンや医薬品として摂取したプソイドエフェドリンなどの物質の代謝に關与する酵素

図で使用されるおそれがある医薬品の販売等に関する出題については、第1章 I-2 (b) を参照して作成のこと。

(c) 抗コリン成分

ベラドンナ総アルカロイド、ヨウ化イソプロパミド等が主に用いられる。鼻腔内の刺激を伝達する副交感神経系の働きを妨げることで、くしゃみ、鼻汁に効果を示す。アセチルコリンと受容体との反応を妨げることで鼻の血管を収縮させる働きもあるが、アドレナリン作用成分に比べて作用は弱いと、鼻閉（鼻づまり）への効果は低い。

抗コリン成分の働き、副作用等に関する出題については、Ⅲ-⑤（胃腸鎮痛鎮痙薬）を参照して作成のこと。

(d) 抗炎症成分

グリチルリチン酸二カリウム、カンゾウ、塩化リチウム等が主に用いられる。炎症による鼻粘膜の腫れを和らげることで効果を示す。これらの成分の働き、副作用等に関する出題については、I-1（かぜ薬）を参照して問題作成のこと。

(e) 生薬成分

ケイガイ、サイシン、シンイ等が主に用いられる。

① ケイガイ

シソ科のケイガイの花穂を用いた生薬。鼻閉（鼻づまり）や喉の腫れに効果を示す。

② サイシン

ウマノスズクサ科のウスサイシンの根を用いた生薬。鼻閉（鼻づまり）に効果を示す。

③ シンイ

モクレン科のゴランタムシクモクレン等の花の蕾を用いた生薬。鼻閉（鼻づまり）に効果を示す。

● 漢方処方製剤

漢方の考え方に基づくと、人体における自然治癒の働きに不調が生じるのは、体内での様々な循環がバランスよく行われていないことによって起こるものとされている。漢方処方製剤はアレルギーそのものを対象とするものはないが、皮膚症状や鼻の症状に効果がある製剤を使用者それぞれの体質にあわせて選択することが望ましい。

皮膚症状を主とするものに対して十味敗毒湯、消風散、当帰飲子等が、鼻の症状を主とするものに対して葛根湯加川芎辛夷、荊芥連翹湯、辛夷清肺湯等が用いられる。

構成生薬としてカンゾウ又はマオウが含まれる漢方処方製剤に共通する留意点に関する出題については、Ⅱ-1（咳止め・痰を出しやすくする薬）を参照して作成のこと。構成生薬としてダイオウが含まれる漢方処方製剤に共通する留意点に関するについては、Ⅲ-2（腸の薬）を参照して作成のこと。

また、化膿性皮膚疾患・急性皮膚疾患の初期、急性疾患に用いられる場合の十味敗毒湯を除くいずれも、比較的長期間（1ヶ月位）服用されることがあり、その場合に共通する留意点に関する出題については、XIV-1（漢方処方製剤）を参照して問題作成のこと。

(a) 十味敗毒湯

化膿性皮膚疾患・急性皮膚疾患の初期、蕁麻疹、急性疾患、水虫に適するとされているが、体が虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱い人では不向きとされている。構成生薬としてカンゾウが含まれる。

化膿性皮膚疾患・急性皮膚疾患の初期、急性疾患に用いられる場合には、漫然と長期の使用は避け、1週間位使用しても症状の改善がみられないときはいったん使用を中止して専門家に相談がなされることが望ましい。

(b) 消風散

分泌物が多い慢性湿疹に適するとされているが、体が虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢をしやすい人では、胃部不快感、腹痛等の副作用が現れやすいなど、不向きとされている。構成生薬としてカンゾウが含まれる。

(c) 当帰飲子

冷え症の人における、分泌物が少ない慢性湿疹、痒みの症状に適するとされているが、胃腸が弱く下痢をしやすい人では、胃部不快感、腹痛等の副作用が現れやすいなど、不向きとされている。構成生薬としてカンゾウが含まれる。

(d) 葛根湯加川芎辛夷

鼻閉（鼻づまり）、蓄膿症、慢性鼻炎に適するとされているが、体が虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすいなど、不向きとされている。構成生薬としてカンゾウ、マオウが含まれる。

(e) 荊芥連翹湯

蓄膿症、慢性鼻炎、慢性扁桃炎にきびに適するとされているが、胃腸の弱い人では、胃部不快感等の副作用が現れやすいなど、不向きとされている。構成生薬としてカンゾウが含まれる。まれに重篤な副作用として肝機能障害が起こることが知られている。

(f) 辛夷清肺湯

鼻閉（鼻づまり）、慢性鼻炎、蓄膿症に適するとされているが、体が虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く冷え症の人では、胃部不快感等の副作用が現れやすいなど、不向きとされている。

まれに重篤な副作用として肝機能障害、間質性肺炎が起こることが知られている。

3) 相互作用、受診勧奨

【相互作用】 鼻炎用内服薬は内服で用いられるものであるが、鼻炎用点鼻薬や痔疾用薬など外